

富山県精神科等通院・入院患者の 二 一 ス 調 査

平成23年11月実施

富山県厚生部健康課精神保健福祉係

精神科等通院・入院患者のニーズ調査

○調査概要

1 調査対象・調査期間

(1)通院患者調査	(2)入院患者調査
平成23年11月14日から16日に通院した者のうち、 <u>精神疾患(県内在住者)と診断したすべての患者</u>	平成23年11月21日現在の入院患者のうち、 <u>受け入れ先などの条件が整えば退院が可能な者として、主治医が判断した患者</u>

2 調査方法

(1)通院患者調査	(2)入院患者調査
<ul style="list-style-type: none">・通院患者自ら記入・回答した対象者に対して主治医が記入	<ul style="list-style-type: none">・主治医が記入・患者本人へ聞き取り調査

精神科等通院・入院患者のニーズ調査

3 調査対象者数

① 通院患者調査

	調査力所数	期間中の通院患者数(人)	調査対象者数(人)
精神科病院	31	3,403	1,403
精神科診療所	44	1,560	425
合計	75	4,963	1,828

② 入院患者調査

	調査力所数	期間中の通院患者数(人)	調査対象者数(人)
精神科病院	31	2,894	345
合計	31	2,894	345

通院患者のニーズ調査結果

表2-1-1 通院患者数と回答者

(調査年月)	今回調査 (H23. 11)
通院患者数(人)A	4,963
調査回答者数(人)B	1,828
回答率(%)B/A	36.8

図2-1-1 通院患者の住まい

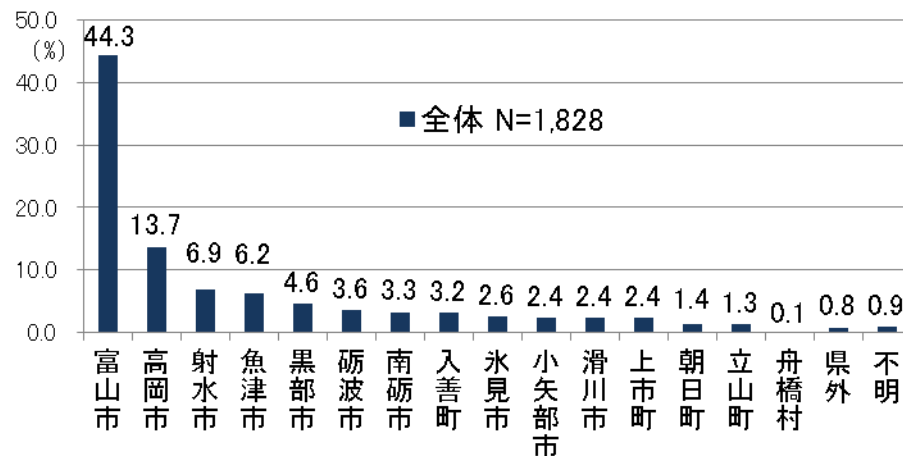


表2-1-2 性別・年齢別回答者数

(上段：人、下段：%)

	10. 20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	113	173	185	176	156	97	900
	12.6	19.2	20.6	19.6	17.3	10.8	49.2
女性	119	189	169	147	164	140	928
	12.8	20.4	18.2	15.8	17.7	15.1	50.8
合計	232	362	354	323	320	237	1,828
	12.7	19.8	19.4	17.7	17.5	13.0	100.0

調査期日の平成23年11月14日から11月16日までの通院患者は4,963人、うち1,828名(回答率36.8%)から回答を得た。

○自立支援医療制度の利用

図2-3-1 自立支援医療制度の利用

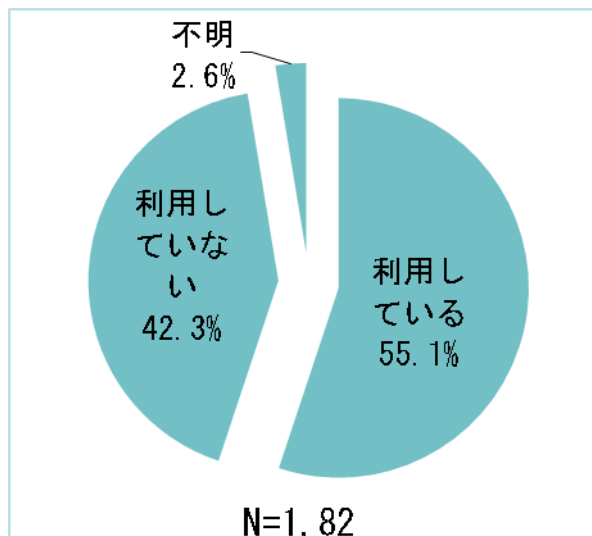
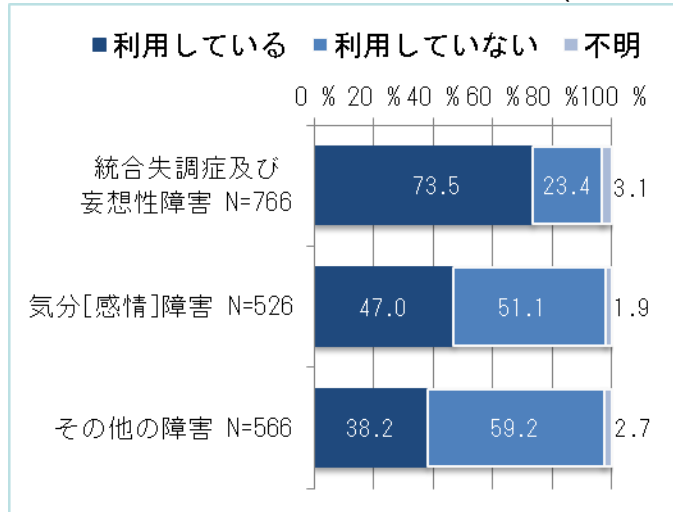


表2-3-1 自立支援医療制度の利用(性年齢別)(%)

		利用している	利用していない	不明
全体 N=1828		55.1	42.3	2.6
性別	男性 N=900	57.7	39.3	3.0
	女性 N=928	52.6	45.2	2.3
年齢	10.20歳代 N=232	48.7	49.6	1.7
	30歳代 N=362	61.0	36.7	2.2
	40歳代 N=354	60.2	37.9	2.0
	50歳代 N=323	61.9	35.6	2.5
	60歳代 N=320	58.4	38.1	3.4
	70歳以上 N=237	30.8	65.0	4.2

図2-3-2 自立支援医療制度の利用(疾患別)



自立支援医療制度の利用状況は、「利用している」が55.1%である。疾患別にみると、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」は「利用している」が73.5%と「気分[感情]障害」他に比べ利用者が多くなっている。

○生活の形態

図2-3-7 生活の形態

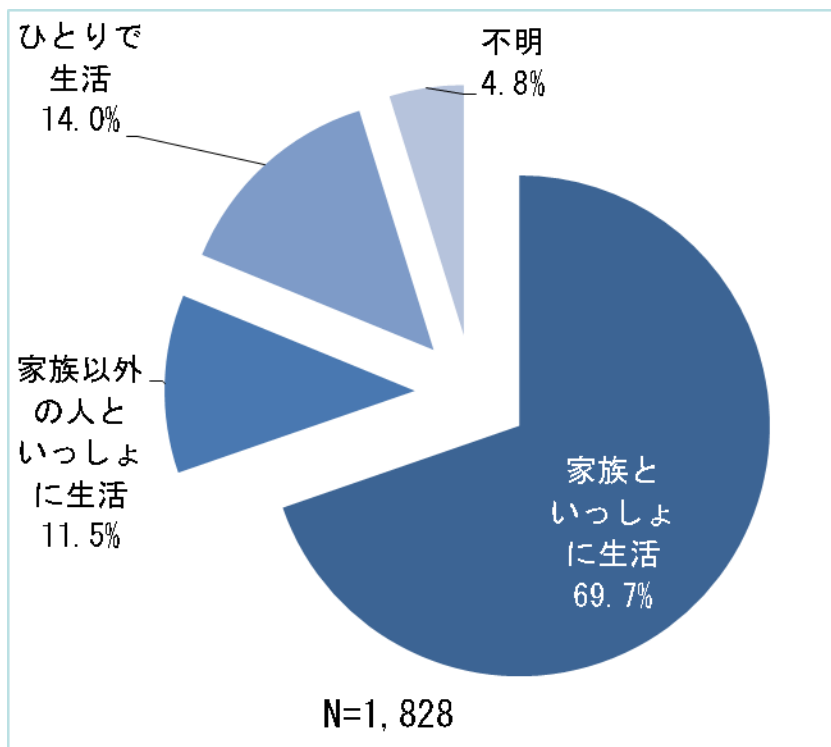


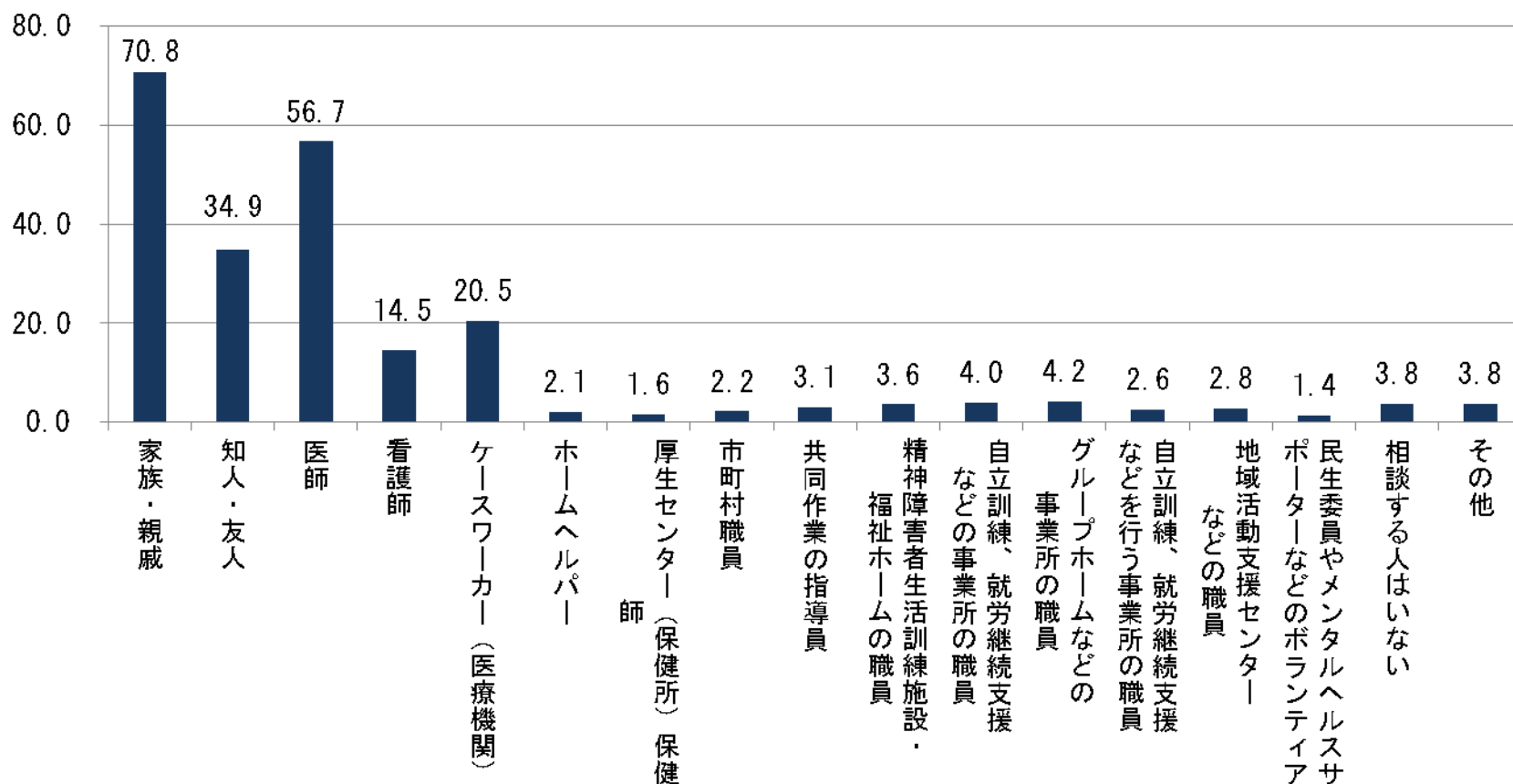
表2-3-7 生活の形態

		家族とひとしょに生活	家族以外の人とひとしょに生活	ひとりで生活	不明
全体 N=1,828		69.7	11.5	14.0	4.8
男	10.20歳代 N=113	85.8	5.3	8.0	0.9
	30歳代 N=173	78.6	6.4	12.7	2.3
	40歳代 N=185	74.1	4.9	16.8	4.3
	50歳代 N=176	61.4	10.2	25.6	2.8
	60歳代 N=156	49.4	20.5	22.4	7.7
	70歳以上 N=97	62.9	14.4	6.2	16.5
女	10.20歳代 N=119	77.3	14.3	5.9	2.5
	30歳代 N=189	77.2	11.1	9.0	2.6
	40歳代 N=169	75.1	13.6	8.3	3.0
	50歳代 N=147	72.1	10.9	15.0	2.0
	60歳代 N=164	63.4	15.9	15.2	5.5
	70歳以上 N=140	59.3	12.1	16.4	12.1

現在、誰と生活しているかをみると、「家族とひとしょに生活」が69.7%、「ひとりで生活」が14.0%、「家族以外の人とひとしょに生活」が11.5%である。

○心配や悩みの相談相手

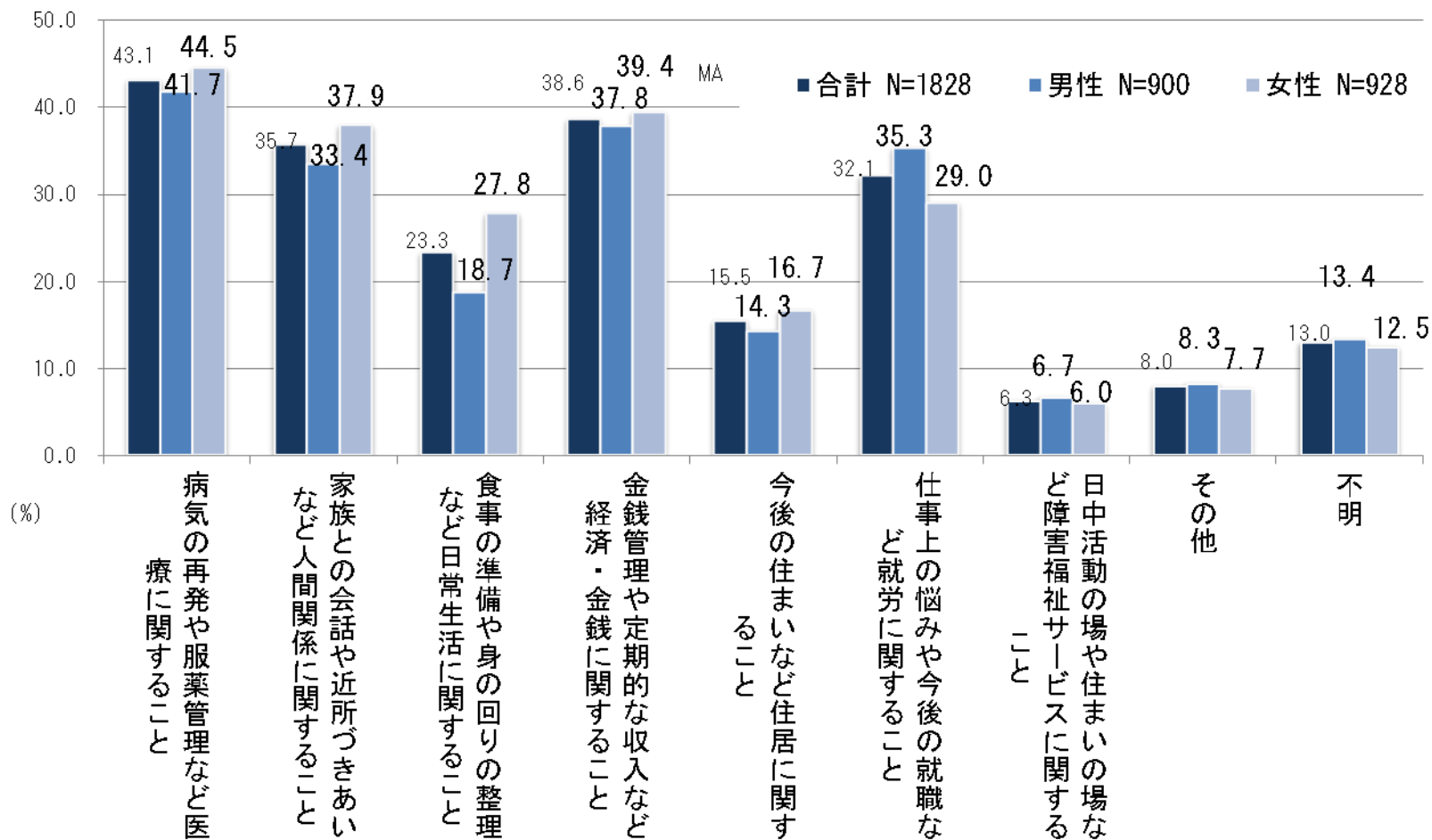
図2-4-1相談相手



心配や悩み事の相談相手をみると、「家族・親戚」が70.8%と最も多く、次に「医師」56.7%、「知人・友人」34.9%の順になっている。

○現在の生活上の心配・悩み

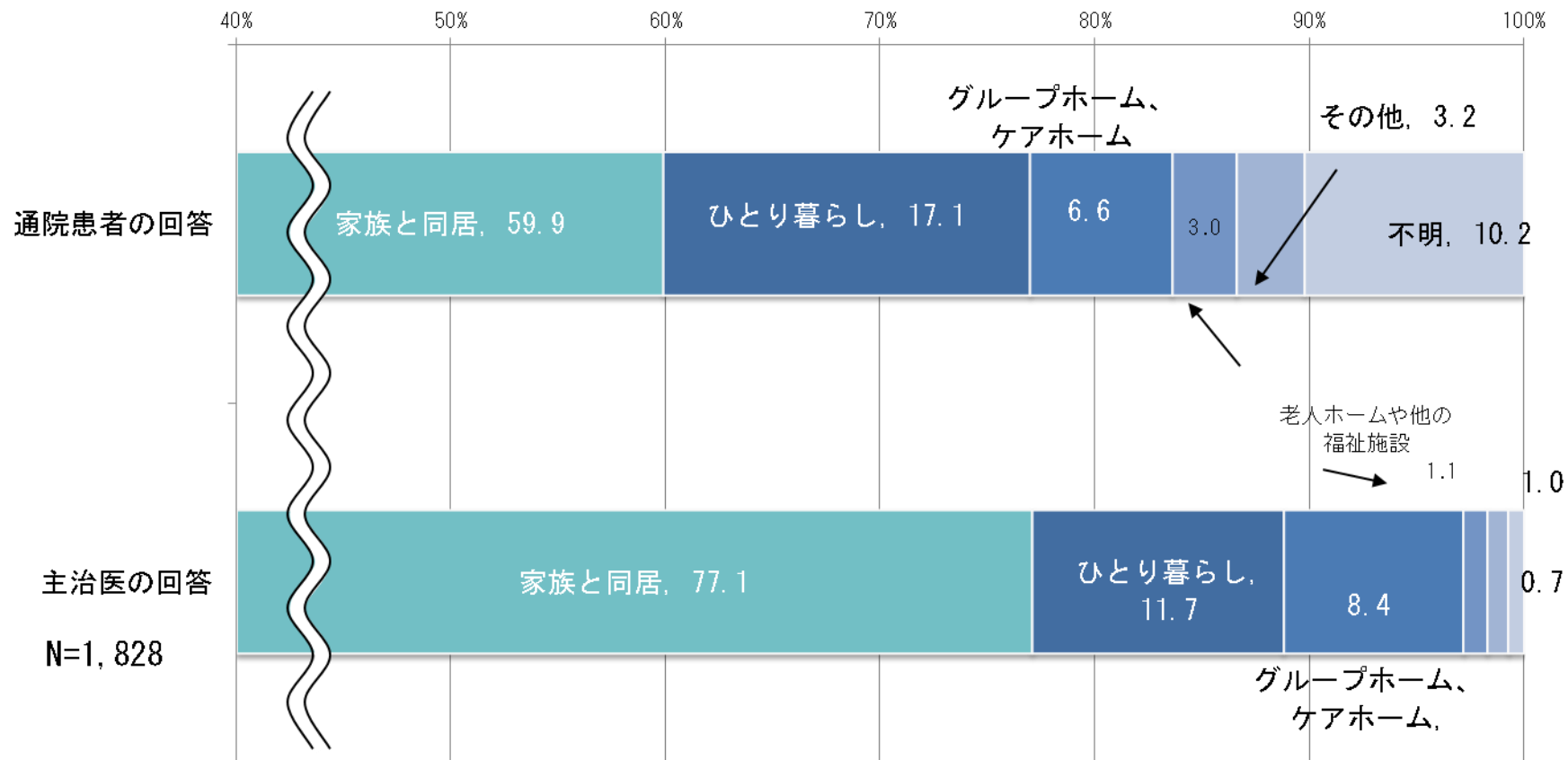
図2-4-2 現在の生活上の心配・悩み



現在の生活上の悩みや心配についてみると、「病気の再発や服薬管理など医療に関すること」43.1%、「金銭管理や定期的な収入など経済・金銭に関すること」38.6%、「家族との会話や近所づきあいなど人間関係に関すること」35.7%、「仕事上の悩みや今後の就職など就労に関すること」32.1%などと悩みや心配は多様である。

○希望する生活の場

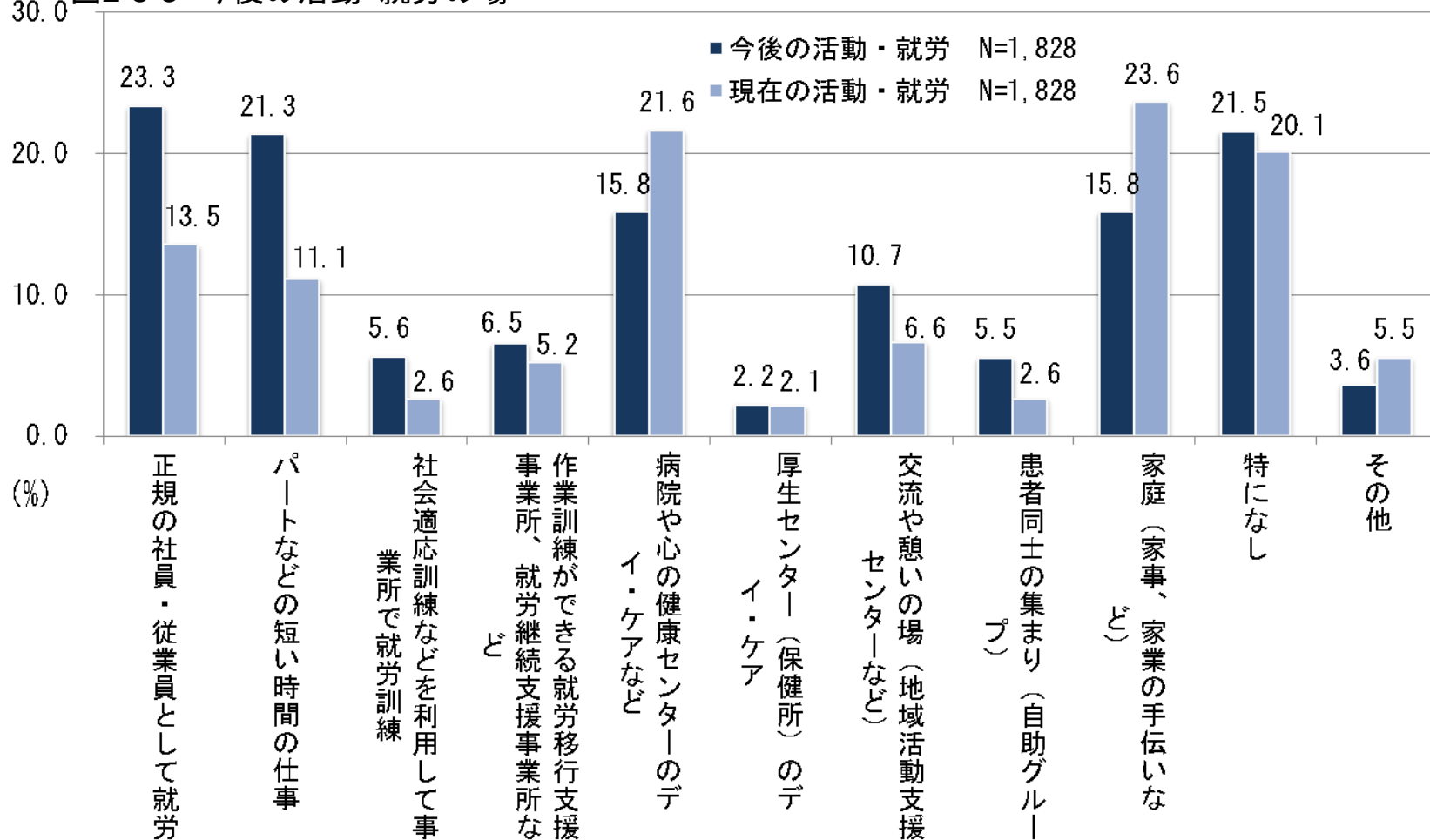
図2-4-3 希望する生活の場



通院患者が生活の場として最も希望するものは、「家族と同居」が59.9%と最も多く、次いで、「ひとり暮らし」17.1%である。主治医は、「ひとり暮らし」とする回答が少なくなっており、回答には、通院患者の希望と若干ギャップがある。

○活動・就労の場(現在・今後)

図2-5-3 今後の活動・就労の場

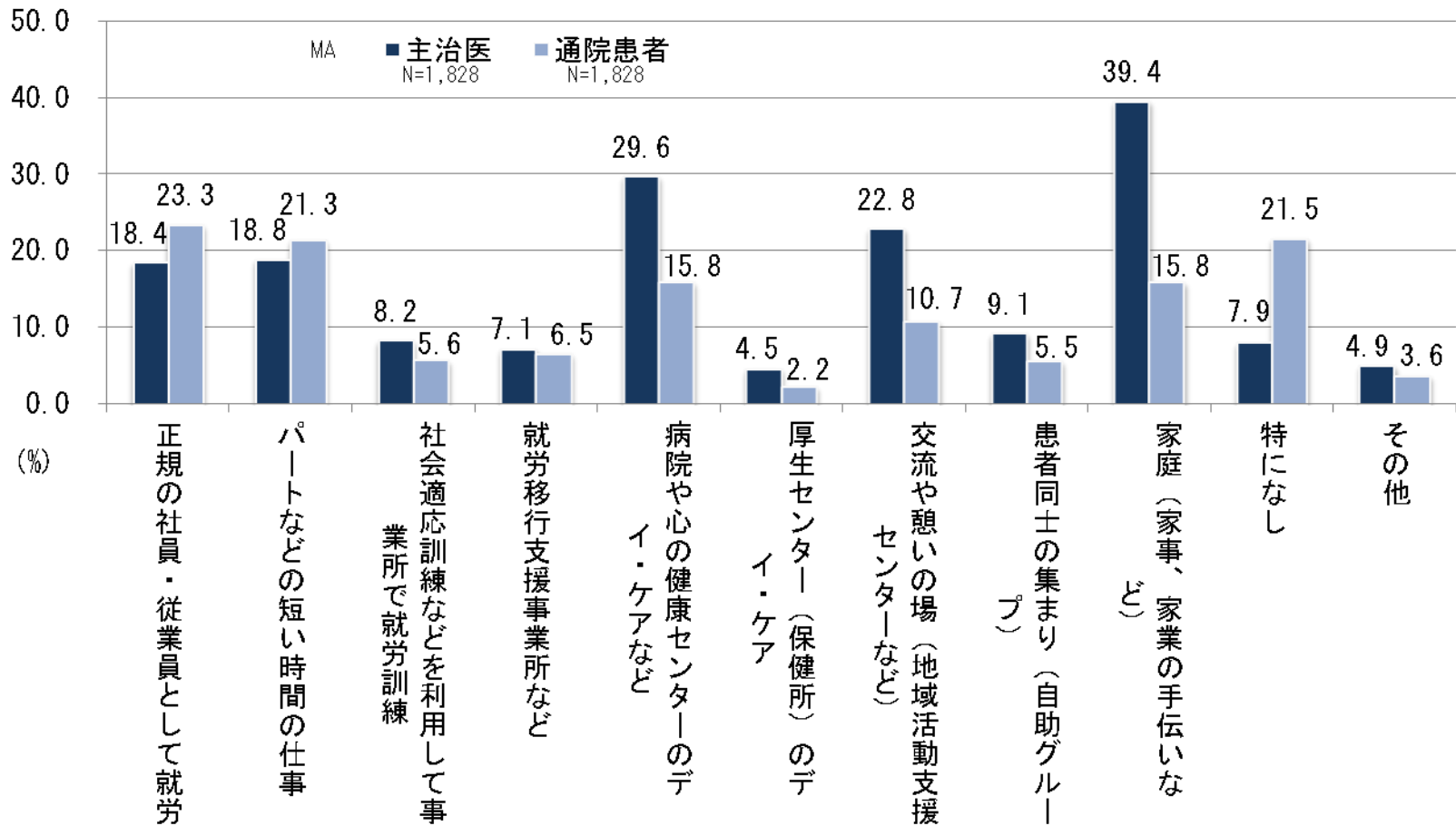


現在の就労・活動の場についてみると「家庭(家事、家業の手伝いなど)」が23.6%と最も多く、次いで、「病院や心の健康センターのデイ・ケアなど」が21.6%である。

今後利用したい就労・活動の場についてみると「正規の社員・従業員として就労」が23.3%と最も多い。

○今後の活動・就労の場（主治医・通院患者）

図2-5-4 主治医からみた今後の活動・就労の場

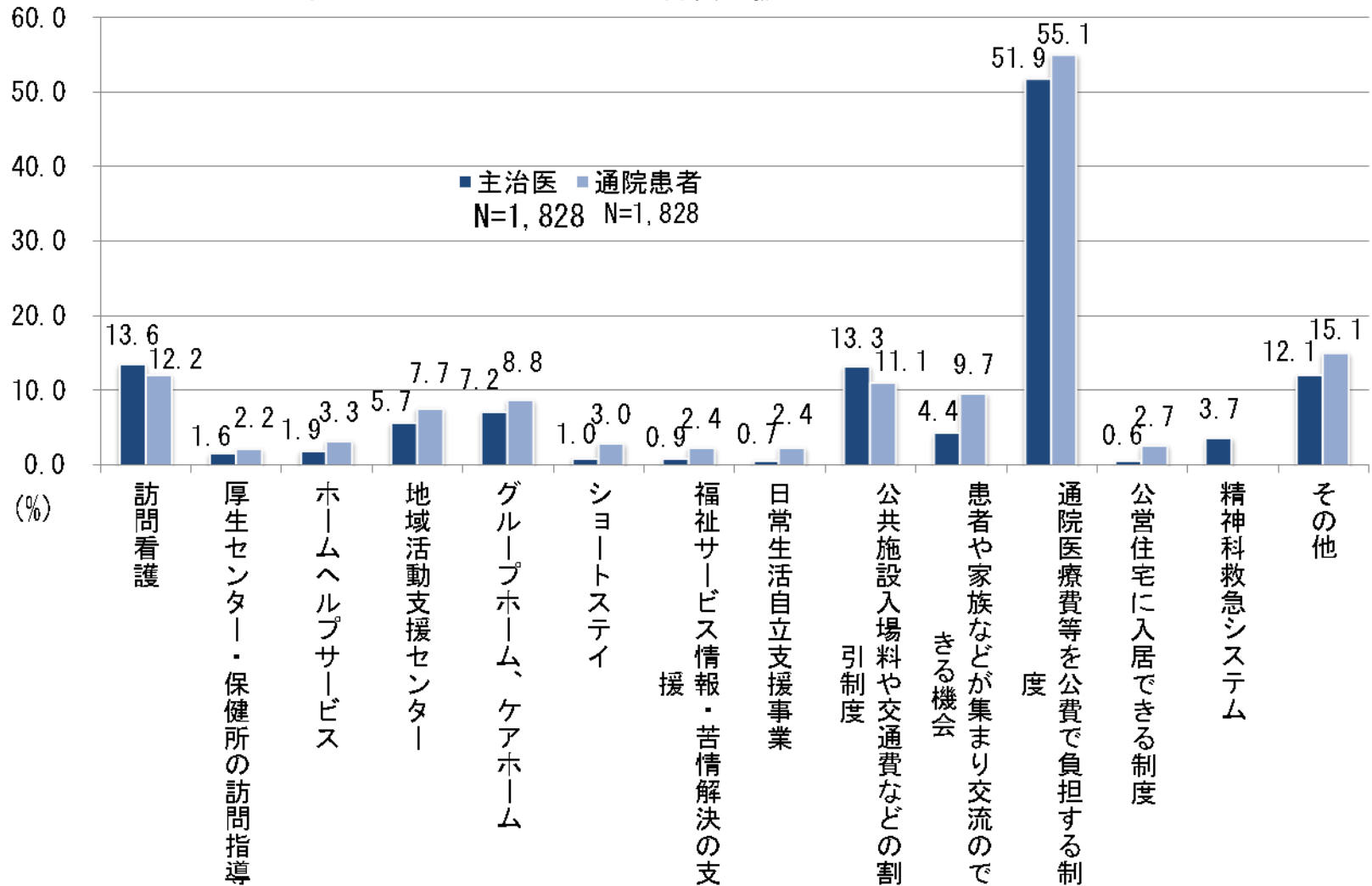


主治医からみた今後の就労・活動の場として適切なものをみていくと、「家庭（家事、家業の手伝いなど）」が39.4%と最も多く、次いで「病院や心の健康センターのデイ・ケアなど」が29.6%となっている。

通院患者の回答と比較すると、主治医は、家庭、健康センター、地域活動支援センターなどの活動を適しているとしているのに対し、通院患者は「正規の社員・従業員として就労」や「パートなどの短い時間の仕事」の就労関連を希望している。

○利用している制度・援助(主治医・通院患者)

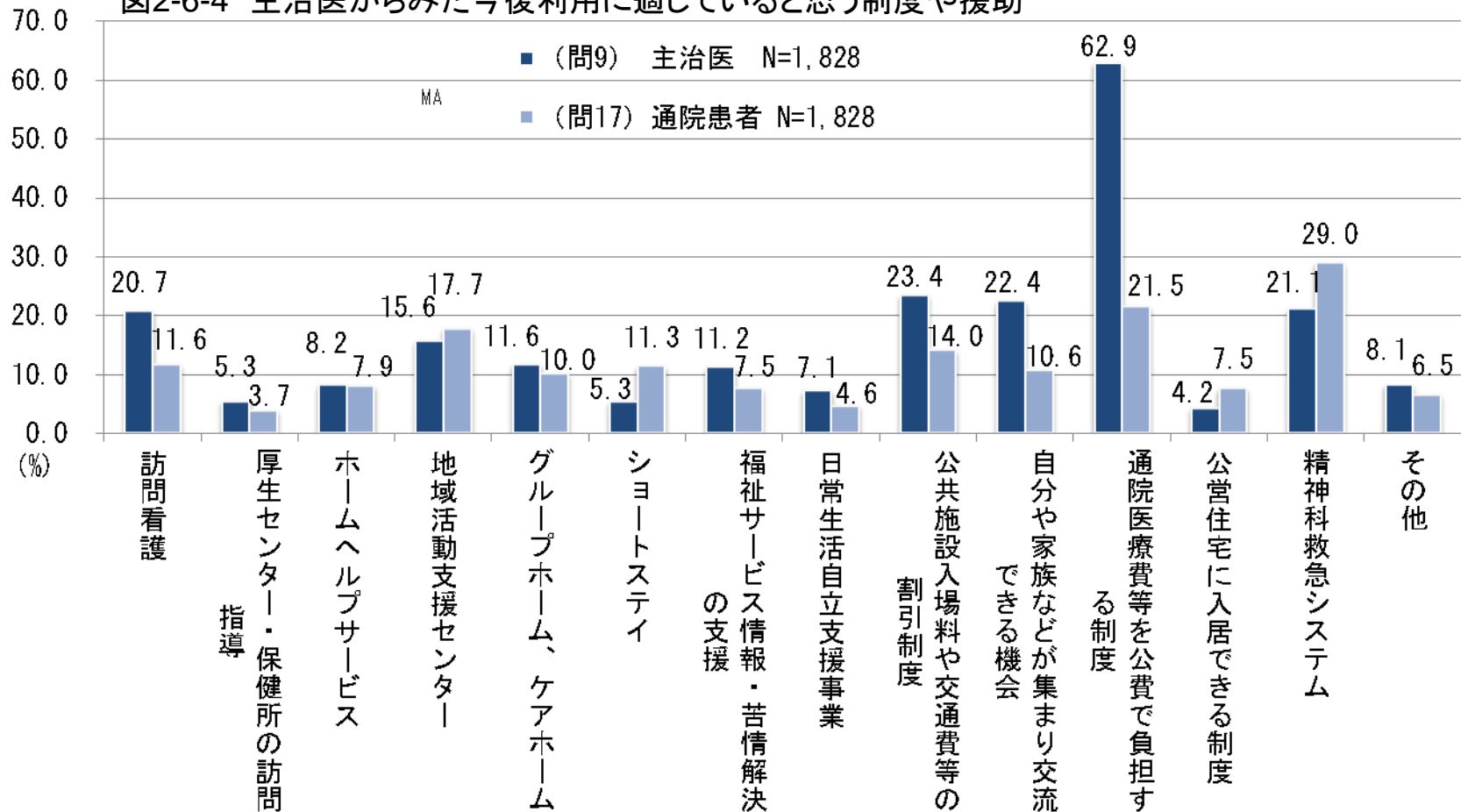
図2-6-2 主治医からみた利用している制度・援助



主治医からみた利用している制度・援助は、「通院医療費等を公費で負担する制度」が51.9%と多い。主治医と通院患者は、利用している制度、援助の意識に大きな差はない。

○今後利用したい制度・援助(主治医・通院患者)

図2-6-4 主治医からみた今後利用に適していると思う制度や援助



今後利用したいと思う制度や援助についてみると、「具合が悪くなったときにいつでも(24時間)相談や受診できる精神科救急システム」が29.0%と最も多く、次いで、「通院医療費等を公費で負担する制度」が21.5%と多い。

主治医からみた今後利用に適していると思う制度や援助についてみると、「通院医療費等を公費で負担する制度」が62.9%と最も多く、次いで、「公共施設の入場料や交通費などの割引制度」が23.4%、「自分や家族などが集まり交流できる機会」が22.4%と多い。

○将来への不安・現在困っていること(フリーアンサー)

	内容	件数
1	自分・家族の高齢化・老後に関する不安・要望 (両親、家族の高齢化に対する不安、将来1人で暮らせるか等の不安)	191
2	金銭面に関する不安・要望 (年金、生活保護、障害年金等の増額の要望、減額の不安、給与に関する不安)	110
3	就労に関する不安・要望 (就労できるか、いつまで就労する場所があるか等)	98
4	福祉施策・支援制度・生活保護への不安・要望 (支援、助成制度等についての拡充、税金の軽減等)	81
5	病気に関する不安・要望 (症状が悪くならないか、社会生活に影響が無いかな等)	73
6	住まいに関する不安・要望 (施設に入れるか、いつまで実家で暮らせるかな等)	49
7	その他 (社会の精神疾患者に対する理解の問題等)	43
8	相談機関に対する不安・要望 (親身に相談できる人・機関等が身近に欲しい)	19

※フリーアンサーを複数回答形式で集計

入院患者のニーズ調査結果

表3-1-1 患者数と回答者

(調査年月)	今回調査 (H23. 11)	前回調査 (H20. 06)	平成15年 (H15. 06)	平成8年 (G8. 06)
入院患者数(人) A	2,894	3,242	3,482	3,436
調査回答者数(人) B	345	325	358	569
回答率(%) B/A	11.9%	10.0%	10.3%	16.6%

表3-1-2 性別・年齢別回答者数

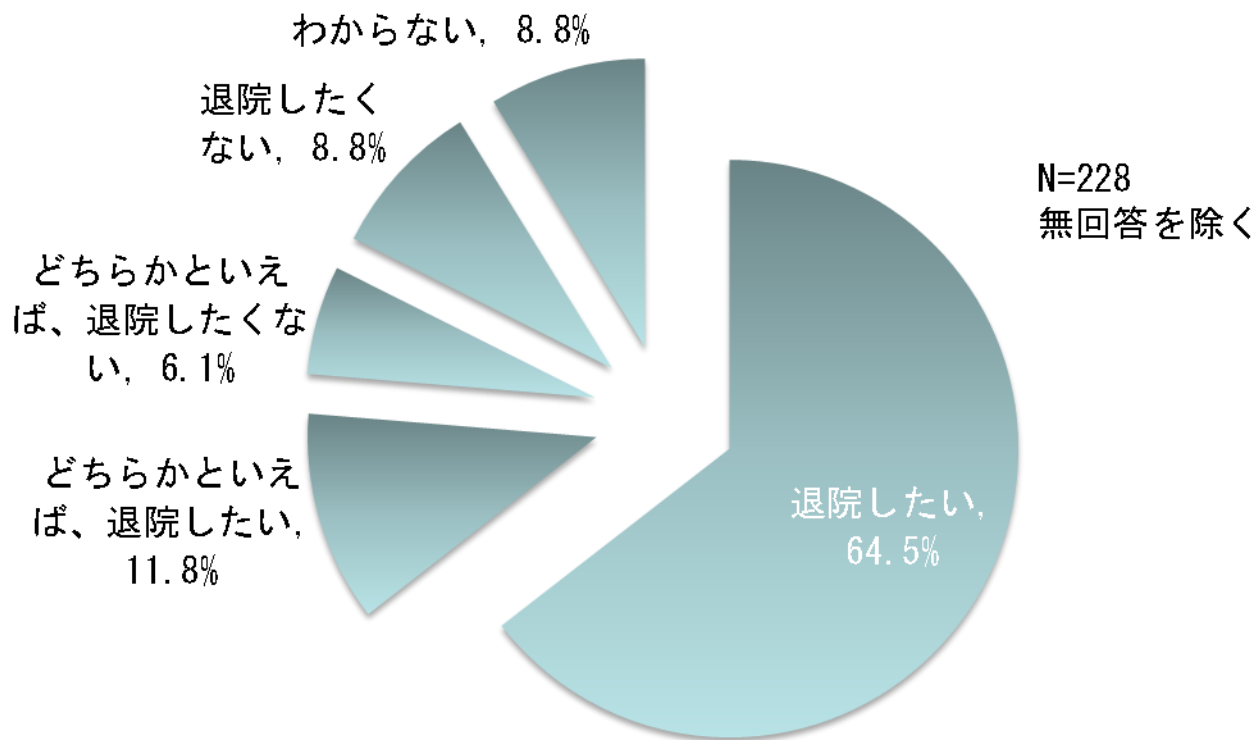
(上段：人、下段：%)

	39歳以下	40歳代	50歳代	60歳以上 ～65歳未 満	65歳以上 ～70歳未 満	70歳以上	合計
男性	20	18	40	25	26	55	184
	10.9	9.8	21.7	13.6	14.1	29.9	53.3
女性	14	11	21	21	13	81	161
	8.7	6.8	13.0	13.0	8.1	50.3	46.7
合計	34	29	61	46	39	136	345
	9.9	8.4	17.7	13.3	11.3	39.4	100.0

調査期日現在の入院患者数は、2,894人、うち調査回答者数は345人であった。平成20年調査(以下、前回調査)に比べ入院患者数は348人減少しているが、調査対象者数は、調査対象者数は20人増加した。

○退院の意思（入院患者）

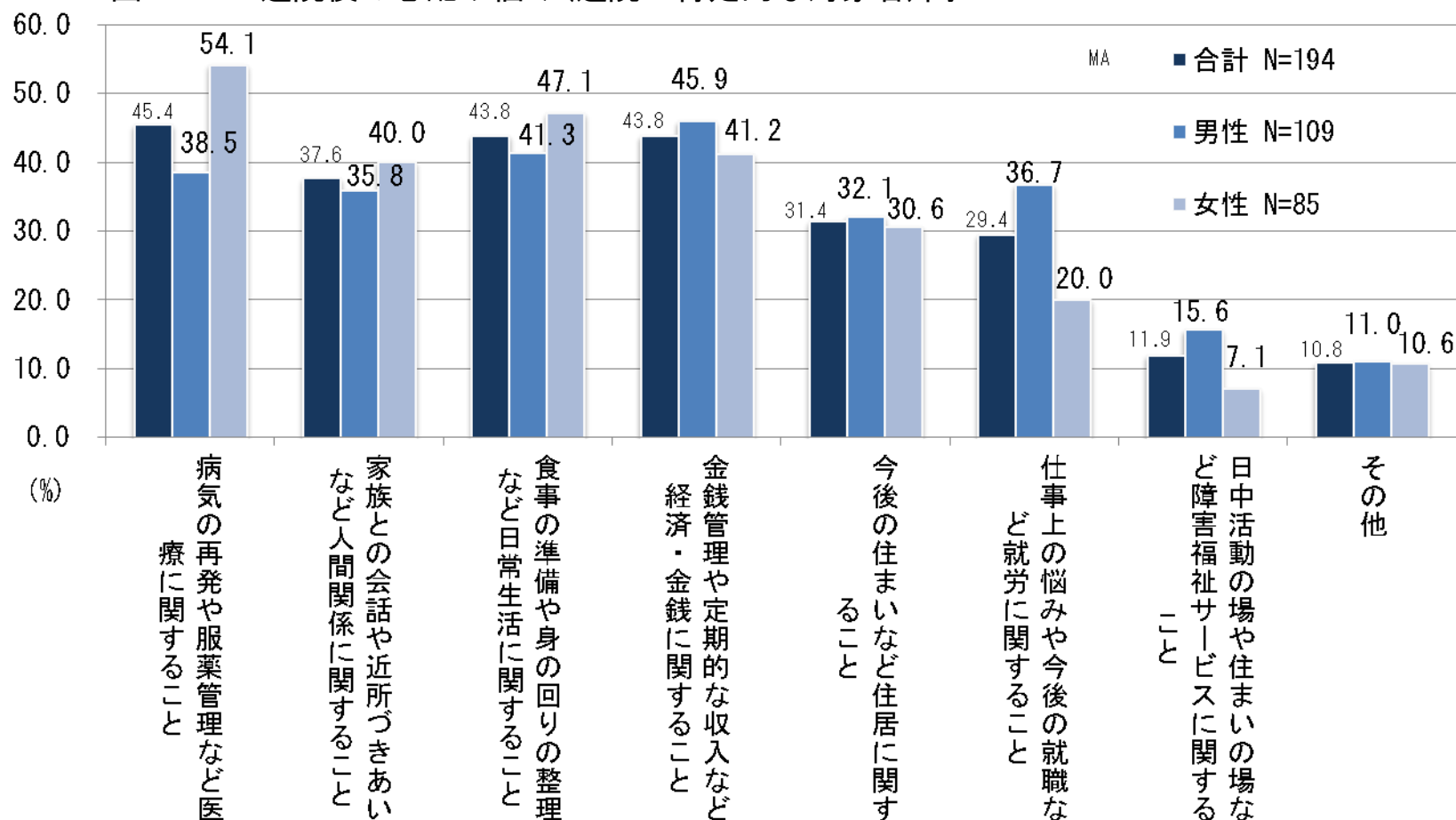
図3-5-2 退院の意思



対象者の退院意思についてみると、「退院したい」64.5%、「どちらかといえば、退院したい」11.8%と退院の意思がある対象者は約75%である。

○退院後の心配や悩み(退院に肯定的な対象者)

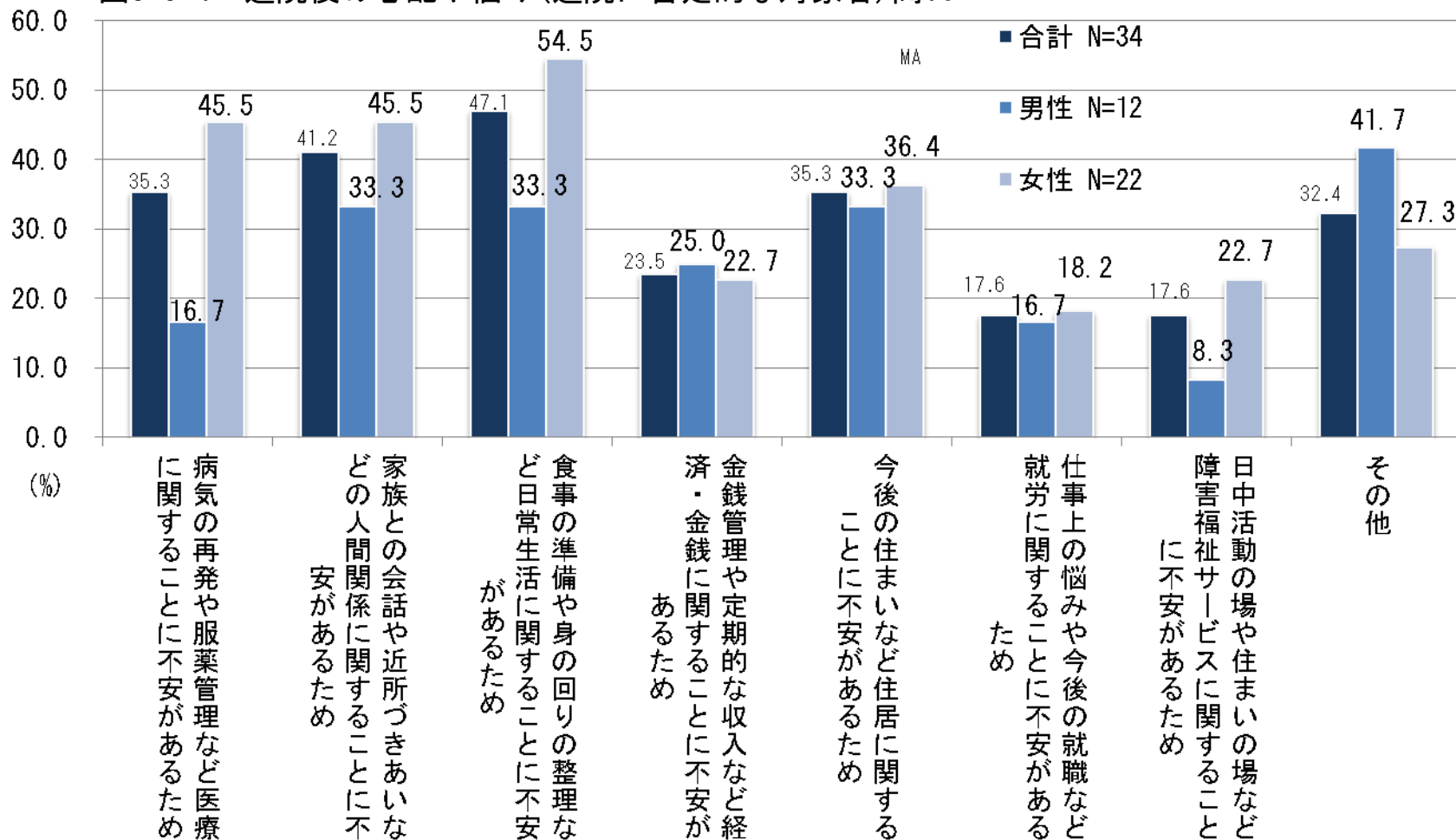
図3-5-3 退院後の心配や悩み(退院に肯定的な対象者)問17



退院後の生活上の悩みや心配についてみると、「病気の再発や服薬管理等医療に関すること」45.4%、「食事の準備や身の回りの整理など日常生活に関すること」と「金銭管理や定期的な収入など経済・金銭に関すること」がそれぞれ43.8%と多くなっている。

○退院後の心配や悩み(退院に否定的な対象者)

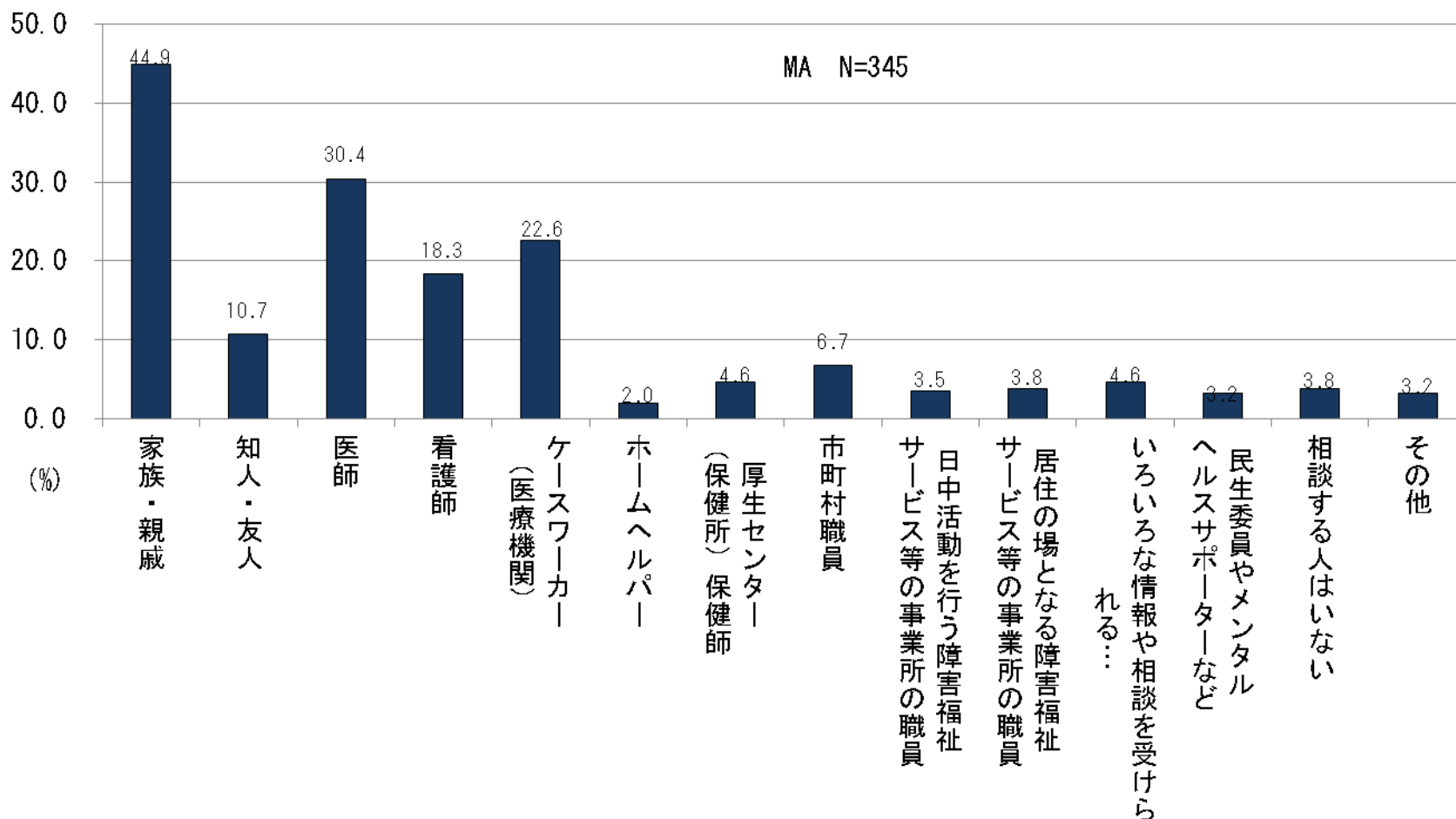
図3-5-4 退院後の心配や悩み(退院に否定的な対象者)問16



退院後の生活上の悩みや心配についてみると、「食事の準備や身の回りの整理など日常生活に関することに不安があるため」が47.1%、「家族との会話や近所づきあいなどの人間関係に関することに不安があるため」が41.2%、「病気の再発や服薬管理など医療に関することに不安があるため」と「今後の住まいなど住居に関することに不安があるため」がそれぞれ35.3%となっている

○退院後の相談相手（入院患者）

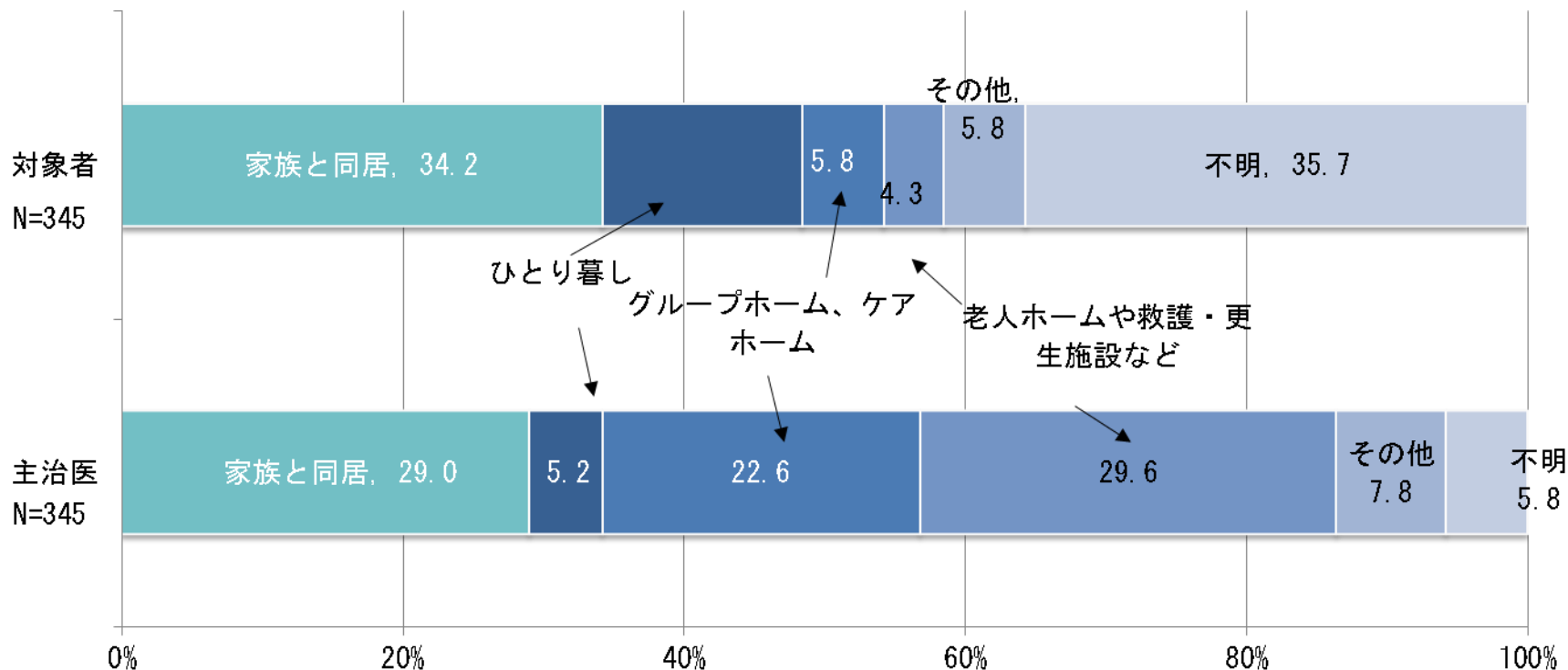
図3-5-5 退院後の相談相手



退院後の相談相手を見ると、「家族・親戚」が44.9%と最も多く、次いで「医師」30.4%、「ケースワーカー（医療機関）」22.6%、「看護師」18.3%の順になっている。

○退院後希望する生活の場（主治医・患者）

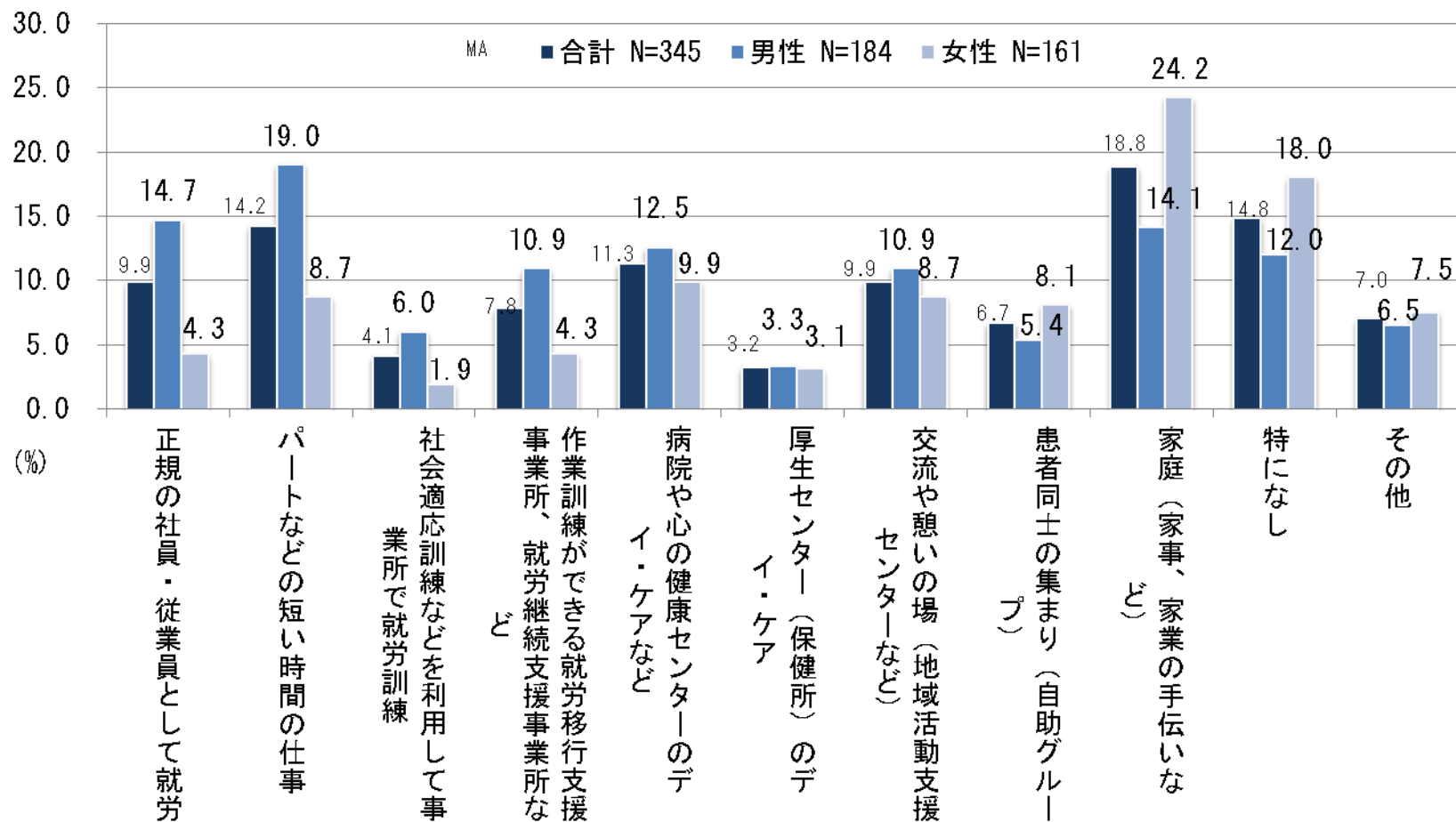
図3-5-7 退院後希望する生活の場



退院後、患者が希望する生活の場をみると、「家族と同居」が34.2%と最も多く、次いで「ひとり暮らし」14.2%と多い。また、主治医が判断した生活の場は「老人ホームや他の福祉施設のようなわりあい大きな生活施設」が29.6%と最も多く、次いで「家族との同居」29.0%、「グループホーム・ケアホーム」が22.6%が多い。

○退院後希望する就労・活動の場（入院患者）

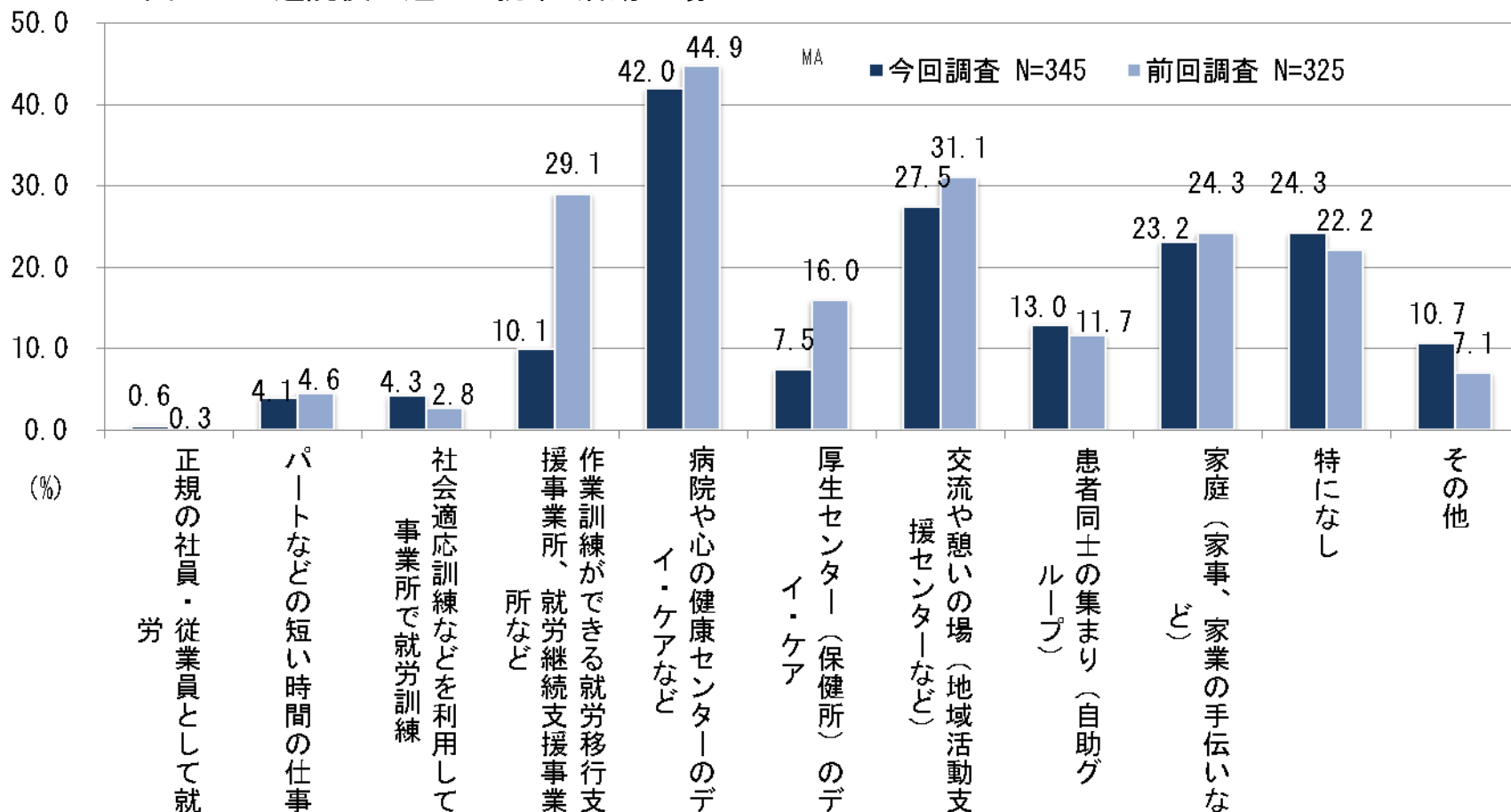
図3-5-9 退院後希望する就労・活動の場



入院患者が退院後に就労や活動の場として利用したいことは、「家庭(家事、家業など手伝いなど)」が18.8%、「特になし」14.8%、「パートなどの短い時間の仕事」14.2%であった。

○退院後に適した就労・活動の場（主治医）

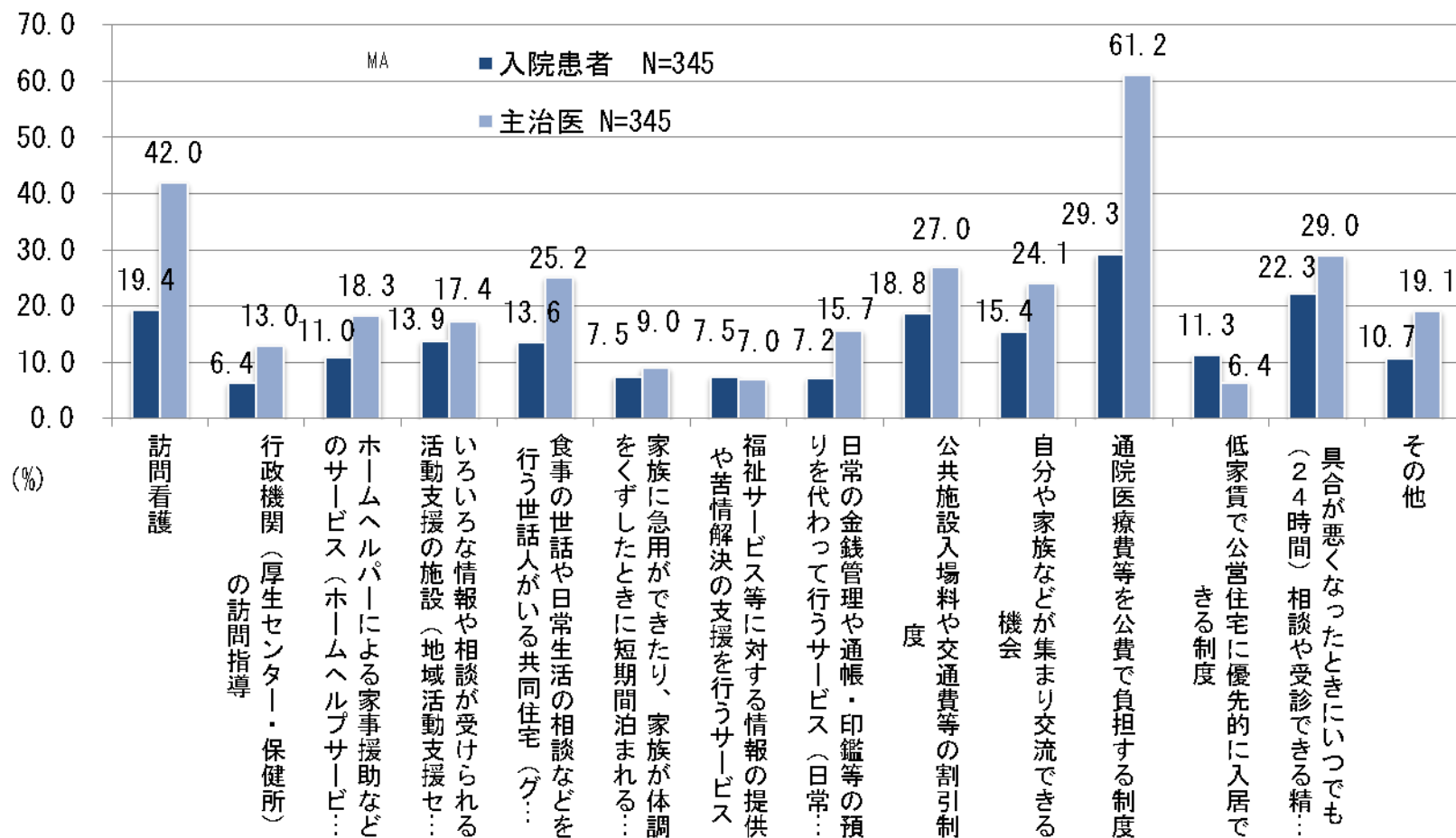
図3-5-10退院後に適した就業・活動の場



主治医が判断した退院後に適した就労・活動の場についてみると「病院や心の健康センターのデイ・ケアなど」が42.0%と最も多く、次いで「交流や憩いの場」が27.5%と多い。

○退院後に利用したい制度・援助（主治医・患者）

図3-5-12 退院後に利用したい制度や援助



入院患者が退院後に利用したい制度や援助についてみると、「通院医療費などを公費で負担する制度」が29.3%と最も多く、次いで「具合が悪くなったときにいつでも（24時間）利用できる相談や受診できる精神救急システム」が22.3%と多かった。一方、主治医は「通院医療費などを公費に負担する制度」が61.2%と最も多い。 23

◆65歳以上の高齢者の状況

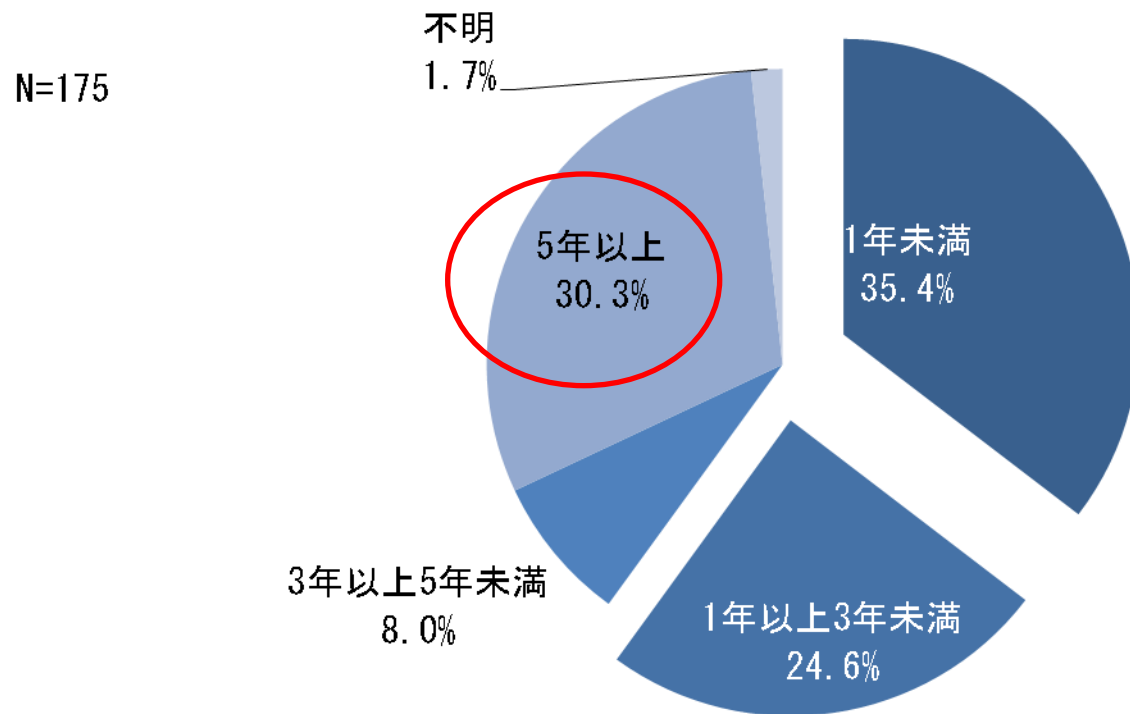
表3-6-1 性別・年齢別回答者数（上段：人、下段：%）

	65歳未満	65歳以上	合計
男性	103	81	184
	56.0	44.0	53.3
女性	67	94	161
	41.6	58.4	46.6
合計	170	175	345
	49.3	50.7	100.0

65歳未満が49.3%、65歳以上が50.7%と約半数が65歳以上の高齢者であった。

○65歳以上の入院患者の入院期間

図3-6-2 入院期間（65歳以上）



65歳以上の入院期間は、「1年未満」が35.4%、「5年以上」が30.3%、「1年以上3年未満」が24.6%であった。

○疾患別の入院期間

表3-6-3 入院期間（疾患別：統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害）

		6ヶ月未満	6ヶ月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	不明
男性	65歳未満 N=75	18.7	5.3	25.3	6.7	18.7	14.7	10.7	-
	65歳以上 N=28	7.1	7.1	25.0	10.7	10.7	14.3	25.0	-
女性	65歳未満 N=46	6.5	6.5	30.4	21.7	17.4	10.9	6.5	-
	65歳以上 N=44	13.6	4.5	22.7	6.8	22.7	22.7	6.8	-

表3-6-4 入院期間（疾患別：症状性を含む器質性精神障害）

		6ヶ月未満	6ヶ月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	不明
男性	65歳未満 N=7	57.1	-	14.3	-	-	14.3	14.3	-
	65歳以上 N=37	45.9	16.2	21.6	8.1	5.4	2.7	-	-
女性	65歳未満 N=1	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	65歳以上 N=30	30.0	13.3	33.3	6.7	13.3	-	-	3.3

「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」は、65歳以上男性で50%、女性で52.2%であった。 26